

響

ひびき

真宗大谷派 道誠寺報

No.26

2010年11月30日 発行



絵 百田 稔さん

行事のお知らせ(12月、1月)
 行事の報告(9月10月、11月)
 結婚 ご報告



今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
 求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

12 月

行事のお知らせ

9日
(火)

- ・宗教法人「道誠寺」
設立発起人会
- ・12時～
にもくかい
- ・二木会 ・仏具をおみがきします。
- ・13時～ ・報恩講のお勤めの練習します。

28日
(火)

- ほうおんこう
- ・報恩講
宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌お待ち受け法要
- ・14時～
- ・講師：早瀬 宣明 師
名古屋教区第 21 組 正覺寺住職

報恩講の後、17時より忘年会を企画しています。
会場：道誠寺近くの喜久寿司 会費：2,000 円
参加希望の方は 12 月 12 日までにお電話下さい。

道誠寺報恩講

宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌お待ち受け法要

私たちは誰もが、生まれた時から自ら選ぶことのできない境遇に投げ出され、様々な苦悩の中で右往左往しながら、そして死んでいく身を生きています。

その中で私たちは何を願い、何を願われて生きるのでしょうか。これは、私個人の問題でなく、人間としての課題と言えるでしょう。私たちに先立って、その課題に生きた親鸞聖人に、そして 750 年続いた念仏の教えにたずねていきましょう。どうぞお気軽にご参詣下さい。

日程

13:00 受付

14:00 開会

14:15 勤行

正信偈 草四句目下

念仏讚 淘三

和讚 弥陀大悲ノ誓願ヲ (次第六首)

回向 願以此功德

御俗姓

15:00 法話

16:00 茶話会&ゲーム

16:30 閉会

1 月

13日
(木)

- しゅしょうえ
- ・ 修正会
 - ・ 14時～

住職より新年の挨拶とお話

27日
(木)

- ・ 書道教室 写経
- ・ 15時～ 青山 美智子 師
- ・ 同朋会
- ・ 17時～ 清谷 真澄 師

上記の行事はすべて会費
ありません。

「二木会」は、一月はお休
みです。

「同朋会」は『正信偈』を
皆でお勤めした後、真宗の
教えに遇う大切な場です。

電車を御利用の方は、市
川大野駅まで車で送迎致し
ますので、お寺に電話御願
い致します。

(Tel 047-337-5305)



行事の報告

9月

30日(木)

「書道教室」「写経」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

六名参加

写経は『正信偈』をペンや小筆でやっています。来年の一月からは『仏説阿弥陀経』

の写経も開始する予定です。

今はパソコンの普及により、なかなか字を書くことが少なくなりました。

浄土真宗では写経をあまりやっておりませんが、親鸞聖人は、比叡山の修業時代より、生涯にわたって、たくさんの書物(お経)を筆で書き写したりしました。

ですから、少しでも書いてみませんか。道具は不要です。手ぶらで構いません。お気軽に来て下さい♪

「同朋会」

どうほうかい

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十四名参加

講師 清谷真澄

七月の続きで、「正信偈同朋奉讃」の声明作法について学びました。声の出し方、節譜の見かたなどを教えていただきました。

10月

10日(日)

「日曜法話会」

参加者

※ホームページ上では公表しません。

十七名参加

講師 中根信雄

十月の日曜法話会は、東京五組の明福寺副住職、中



中根 信雄 若住職

根信雄 師を講師としてお
迎えしました。
「浄土の教が説かれた機
縁、親子の問題を通して」を
講題として掲げ、法話して
下さいました。



聞法中の様子

『仏説観無量寿経』に説
かれる「王舎城の悲劇」を丁
寧に説明され、最近頻繁に
ニュースの話題にもなる現代
の親子・家族間における問
題を取り上げお話し下さいま
した。

そういった親子の問題は他人事ではなくて、先に述べた『仏説観無量寿経』に説かれていているように、私たち一人ひとりの問題であり、浄土の教えが説かれた機縁となっていると説明下さいました。

そしてその問題の背景を見ると、私の思い通りにしたという思いがあるということが浮かび上がってくるのです。

問題をただの問題として見るのではなく、その背景を知ることが大切であること、そしてそのことから何が願わ

れ、何が問われているのかを受け止めることが大事であることをお話下さいました。

○資料から抜粋

・人間としていつてはならない言葉

「誰のおかげで大きくなったのか」

「勝手に生んでおいて」 (西谷 啓治)

・「命の根」

私の命は 私ひとりのものでなく

おとうさん おかあさんのものです。

そして おとうさん おかあさんのものだけでなく

それぞれの おじいちゃん おばあちゃんのもので、

それはまた ひいおじいちゃん ひいおばあちゃんのもので

勿論 ひいひいおじいちゃん

ひいひいおばあちゃんのものでもあります。

粗末になんてなれますか

不幸になんてなれますか

命の根は いま 私に託されているのです。

14日(木)

にもくかい
「二木会」

参加者

※ホームページ上では公表しません。

七名参加

市川真間にあるサロン・ド・

グラン・パへ「絵手紙やってみ隊

作品展」を観に行きました。

この寺報『響』の表紙の絵を

毎回飾って下さっています百田

稔先生の作品展示されてお

りました。

28日(木)

「書道教室」「写経」
「同朋会」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

五名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十三名参加

講師 清谷真澄

今年の同朋会は、『正信
偈』について学んでいます。

十月は、依経段の

ほんがんみょうごうしやうじやうごう
本願名号正定業

ししん しんぎやう がんいん
至心信樂願為因

じやうとうがくしやうだいねはん
成等覚証大涅槃

ひつし めつど がん じやうじゆ
必至滅度願成就

までの部分についての内容を
ご説明いただきました。

「本願名号正定業」と
は、南無阿弥陀仏の念仏を
称えることよって、必ず平
等に救われていくという意
味です。

清谷先生は、「名号」について、ジブリ映画『千と千尋の神隠し』を例に、「名前」の大切さをお話し下さいました。

「名前」を奪うということ、自分の帰る場所すら分からなくさせたり、時には、家族や社会とのつながりをも切り離し、存在そのものも消し認められないようにするのです。

南無阿弥陀仏の念仏（名号）は「どこからきたのか、そしてどこへ還っていくのか」という「いのちの世界」をあらわしているのです。



背もたれの椅子増えました！

また「周利槃特」しゅりはんとくについての物語をお話し下さいました。

「周利槃特」はお釈迦様の弟子の一人です。彼は、自分の名前さえ覚えられないほど記憶力が悪かったのです。そしてとうとう彼はお釈

迦様に「自分は どうしてこんなに愚かなのでしょうか」と悩みを打ち明け、破門の申し出を願いました。

そこでお釈迦様は「お前は愚者でない。愚者でありながら自分が愚者たることを知らないのが本当の愚者である。お前はおのれを知っている。だから真の愚者でない」とおっしゃられたのです。

そしてお釈迦様は彼に一本のほうき（箒）を与え、「塵ちりを払い、垢あかを除かん」と、一句の言葉を教えました。

彼は、その言葉を一心に考
え、唱えながら掃除をしたの
です。

長い間そうすることで、彼
は「塵や垢は私の執着の心な
のだ」と、とうとうさとりを開
き、聖者になったのです。

ミヨウガ(茗荷)は、お釈迦
様が与えた「周利槃特」にいっ
も身に付け荷える名札のこと
を意味するそうです。

聖者となった「周利槃特」
がこの世を去った後、彼のお
墓に珍しい植物が生えたの
で、人々はその植物を「周利
槃特」になぞらえて、「茗荷」
と名付けたそうです。

このことから、ミヨウガを食
べると、物忘れがひどくなる
という俗説が生まれたそうで
す。

私たちは「名前」をただ
か「名前」と思ってしまいがち
なのですが、「名前」は「体」を
あらわすほど大切なものなの
です。

仏の名号をもって

経の体とするなり。

『教行信証』教巻

本願名号正定業
成等覚証大涅槃

至心信楽願為因
必至滅度願成就

本願の名号は正しく往生を決定するはたらきをする。

第十八の至心信楽の願が往生の原因となる。

仏となって、大涅槃のさとりに至ることは、

第十一の必至滅度の願の成就による。

十月同朋会資料抜粹

11月

11日(木)

「二木会」

参加者

※ホームページ上では公表しません。

十一名参加

十月二十五日の仏前結婚

式のご報告をさせていただき
ました。

その後、喫茶店で茶話会
をしました。

25日(木)

「書道教室」「写経」

「同朋会」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

七名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十六名参加

講師 小林尚樹

女性に人気の書道



写経すればお経も覚わる？

十月に引き続き、

本願名号正定業

至心信樂願為因

成等覺証大涅槃

必至滅度願成就

までの部分についての内容をご説明いただきました。

この部分には、親鸞聖人の『教行信証』の「行信証」が凝縮されています。

まず「本願名号正定業」とあり、「本願」そして「至心信樂願」と「必至滅度願」と、法蔵菩薩が誓われた願いが顕れています。

この「本願」というものは四十八あり、願いが光となり、私たち人間にはたらきかけ、私たちのあり方を照らしはつきりさせるのです。

そして「名号」とは、称えている南無阿弥陀仏のお念仏なのです。称えているのは私たちなのですが、「本願名号」とあるように、仏さまが称えている（願っている）念仏であります。つまり「本願」と「名号」は別々のものではありません。願いが形となったものが「名号」なのです。だから「本願名号」というのは、私たち一人ひとりに、生

きている現実の生活での迷いや苦しみを明らかにし、その迷いや苦しみをひるがえして、真実に生きたいと願うようにはたらきかけているのです。

そしてこの「本願名号」は「信」となって、私たちがいただけるものなのです。これをいただいたことを、浄土への往生が定まった「現生正定聚」と言います。

往生は心にあり

成仏は体にあり

曾我量深

第11願 必至滅度願

たとい我、仏を得んに、国の中の人天、定聚に住し必ず滅度に至らずんば、正覚を取らじ。

第17願 諸仏称名願

たとい我、仏を得んに、十方世界の無量の諸仏、ことごとく咨嗟して、我が名を称せずんば、正覚を取らじ。

第18願 至心信樂願（念仏往生願）

たとい我、仏を得んに、十方衆生、心を至し信樂して我が国に生まれんと欲うて、乃至十念せん。もし生まれずは、正覚を取らじ。唯五逆と正法を誹謗せんをば除く。

十月と十一月 同朋会資料参考

柿とりんごを食べながらの座談会です。
分からないことや疑問を皆で話し合います。

**成仏と往生は
どう違うの？**



◆敬弔

※ホームページ上では

公表しません。

生前のご功労を偲び、
念仏合掌して哀悼の意
を表します。

御懇志

※ホームページ上では

公表しません。

敬称略

どうもありがとうございます

ございました。

前号の「御懇志」欄に

さんのお名前記入漏れ
がありました。誠に申し訳あ
りませんでした。



鸞恩くん(左)

蓮ちゃん(右)

京都の本山(東本願寺)の
報恩講へ (11月24日)



住職写真館

法語

披露宴でいただいた言葉

お互いがお互いを

尊重し合えるような

関係になって下さい

尾畑 文正

夫婦円満の秘訣

自分だけの時間を

もたないこと

市野 俊道

結婚ご報告

十月二十五日月曜日に名

古屋にある東別院というお寺

の本堂で仏前結婚式を挙げま

した。

当日は雨天という予報でし



東別院 本堂(外観)

たが、幸いにもあまり降らずと
いう天候でした。



東別院 本堂(内観)

司婚者は、道誠寺の同朋会
にもよく来て下さる松戸市恵
光寺の勝尾当知住職に勤めて
いただきました。

佛前結婚式次第

- 一 開式の辞
- 一 新郎新婦入堂
- 一 司婚者入堂
- 一 司婚者献香
- 一 表白
- 一 勤行「嘆佛偈」
- 一 司婚の言葉
- 一 誓いの言葉
- 一 念珠授与
- 一 新郎新婦献香
- 一 夫婦契りの盃
- 一 指輪の交換
- 一 親族乾杯
- 一 司婚者退堂
- 一 新郎新婦退堂
- 一 閉式の辞



司婚の言葉 ～ 誓いの言葉

阿弥陀如来を前にした仏前結婚式はとても厳かに勤まりました。今、振り返ってみますと、とても緊張していて、あつという間の出来事のように感じております。

ご参堂いただいたご親族、友人、そしてお参りに来てくれた一般参拝客の方々にもお祝いでいただき、本当にかげがえのない思い出となりました。そして門徒の皆様方にも、多くのお電話やお手紙、またFAXでもお祝の言葉をいただきました。

本当にありがとうございます。妻、恵理とともにこれからも日々精進していこうと思っております。よろしくお願い致します。

それでは新しい若坊守さんから一言ご挨拶を、どうぞ♪

若坊守から

ご挨拶

初めまして、副住職の妻の
恵理です。この度、十月二十五
日に結婚式を挙げ、ついに若坊
守として道誠寺に携わること
になりました。

今まで道誠寺で寺務をしてい
ましたので、ご存知の方もいらつ
しやると思いますが、この場を
借りて、ご挨拶させていただきます
たいと思います。

私はお寺の生まれではなく、
一般の家庭で育ってきたため、
お寺に嫁ぐことは、正直戸惑い



と不安がありました。まだ分
からないこともたくさんあ
り、皆様にご迷惑をおかけす
ることもあるかと思いますが、
住職、副住職、またご門徒の
皆様方と共に、道誠寺のお寺
を盛りたてていきたいと思っ
ております。どうぞよろしくお
願いいたします。

結婚祝い

※ホームページ上では

公表しません。

誠に有難う

ございました。

☆編集後記☆

◆今年もあと残りわずかですね。毎年この時期になると、報恩講がお寺のあちらこちらで勤まれます。昔は、ご門徒のお宅でも各家で勤まれたそうです。

同朋会で、小林先生がおっしゃっていたことが頭に残っています。

「報恩講」とは、自分が親鸞聖人の教えにどう向き合っているのか、自分にとって親鸞聖人の教えは何であるのかを確かめる場ではないかと。

東京教区の御遠忌テーマである「真のよりどころを求めて」。自分にとっての「真のよりどころ」とは、何でしょうか。

「親鸞聖人の教え」や「浄土」だとか「お念仏」だと言いたいけれど、お坊さんであるにも関わらず、胸を張って言えないのが私。

普段の生活において、よりどころとしているものは、自分だったり、家族だったり、友達だったり、あるいはお金だったり…。

「真のよりどころ」はハッキリしませんが、普段の生活では、不確かであるものを確かであるものとして、それをよりどころとしていることに気がきます。

◆『響』では、同朋会や日曜法話会の先生のお話をまとめていますが、お話を一言一句そのまま載せていません。つまり、「私」の解釈というものが、入り混じっています。自己弁護になりますが、お経で言われる「如是我聞（によせがもん）」です。

しやくこうせい
(釋光生)

編集発行人

〒272-0804

千葉県市川市南大野1-26-31

道誠寺 釋光生

URL <http://douzyouzi.com>

電話 047(3337)5305

FAX 047(3337)5306